

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

## 京阪ホールディングス株式会社（証券コード：9045）

### 【変更】

長期発行体格付	A -	A
格付の見通し	ポジティブ	安定的
債券格付	A -	A
発行登録債予備格付	A -	A

### 【据置】

国内C P 格付	J - 1
----------	-------

### 格付事由

- 大阪府、京都府および滋賀県を主たる事業エリアとする民鉄大手。京都への観光需要の取り込みを積極的に進めている。当社グループは16年4月に持株会社体制に移行した。経営・資本・資金などの諸側面を勘案すれば、グループの一体性は強い。
- 比較的良好な雇用環境に加えインバウンドを含む観光需要の取り込みなどにより、鉄道輸送人員は当面堅調な推移が見込まれる。不動産賃貸物件の積極的な入れ替えを進めるとともに、ショッピングモールの拡張による集客力の向上などが寄与し、関連事業における安定性の高いキャッシュフローの積み上げも進んだ。賃貸物件の取得やホテル事業の強化など戦略投資の実施に伴って設備投資は高水準で推移する見込みだが、高まったキャッシュフロー創出力を背景に、現状程度の財務内容を維持できる可能性が高い。以上から格付を1ノッチ引き上げ、見通しを安定的とした。
- 17/3期営業利益は、期初予想266億円から17/3期第2四半期決算発表時に293億円（前期比7.1%減）に上方修正された。マンション販売の好調や運輸業における動力費の減少などが要因であり、過去最高だった16/3期に次ぐ水準が予想されている。設備投資は453億円と前期比139億円増加する計画だが、キャッシュフローの水準が高まっていることにより、有利子負債残高は3,341億円と前期末比2.6%の増加にとどまる見込みである。
- 18/3期を最終年度とする中期経営計画では、営業利益221億円、ネット有利子負債/EBITDA倍率8.08倍などの定量目標が示されているが、16/3期に前倒し達成されている。新株予約権付社債の発行と自社株買いの実施による財務指標の悪化は小幅にとどまっており、資本蓄積の進展に伴い早期の回復が見込まれる。

（担当）上村 暁生・加藤 直樹

### 格付対象

発行体：京阪ホールディングス株式会社

### 【変更】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A	安定的

対象	発行額	発行日	償還期日	利率	格付
第27回無担保社債（特定社債間限定同順位特約付）	100億円	2013年6月14日	2023年6月14日	1.06%	A

対象	発行予定額	発行予定期間	予備格付
発行登録債	500億円	2015年5月25日から2年間	A

### 【据置】

対象	発行限度額	格付
コマーシャルペーパー	200億円	J-1

## 格付提供方針に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2016年12月14日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：島田 卓郎  
主任格付アナリスト：上村 暁生
3. 評価の前提・等級基準：  
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ（<http://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：  
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ（<http://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2014年11月7日）、「鉄道」（2011年7月13日）、「持株会社の格付方法」（2015年1月26日）、「国内事業法人・純粋持株会社に対する格付けの視点」（2003年7月1日）として掲載している。
5. 格付関係者：  
（発行体・債務者等） 京阪ホールディングス株式会社
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：  
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度をもって示すものである。  
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。  
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：  
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表  
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：  
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

## 留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であると問わず、当該情報の正確性、結果の確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であると問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

## 用語解説

予備格付：予備格付とは、格付対象の重要な発行条件が確定していない段階で予備的な評価として付与する格付です。発行条件が確定した場合には当該条件を確認し改めて格付を付与しますが、発行条件の内容等によっては、当該格付の水準は予備格付の水準と異なることがあります。

## NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ（<http://www.jcr.co.jp/en/>）に掲載されるニュースリリースに添付されています。

## 本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

## 株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.

信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル